

JR東海労ニュース

No.2747

2023年3月1日

JR東海労働組合



2023 JR総連春闘を職場から闘おう！シリーズ⑨

ベア1万円、夏季手当3.5ヶ月は可能だ！ 賃金抑制の理由はない！ 第3回団交

本部は本日、2023年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求に関する申し入れに対する第3回団体交渉を開催しました。今回は、ベア、定期昇給（改訂新人事・賃金制度）、夏季手当などについて議論しました。

ベアについて、本部は「物価はどんどん上昇し、生活は苦しくなっている。特に、電気・ガス料金や食料品の上昇は家計を直撃している。ベア10,000円でも低いくらいだ。会社は支払える体力は充分ある。会社は発足当時から『厳しい厳しいと』と言うが、そんなに厳しいならリニアから撤退すべきだ」と主張しました。会社は「製品の価格に転嫁できる企業とは違う。黒字になったとはいえ、厳しい状況には変りない」などと、賃金抑制のための御託を並べました。

定期昇給について、本部は「順調に昇格する社員とそうでない社員との格差を付ける制度は誤りだ。苦勞した社員が報われるとは詭弁だ。定期昇給は生活する上には不可欠だ。給与が400円しか上がらない社員の気持ちに立て。逡減はやめて6,000円の定期昇給を実施せよ」と訴えました。会社は「苦勞した社員が報われる制度であるとの認識は変わらない。制度を変える考えはない」などと、社員間の賃金格差を肯定する回答に終始しました。

夏季手当について本部は、安定的支給ベースに対するこの間の会社の欺瞞性を追及した上で、「5期連続の低額支給は我慢の限界に来ている。役員報酬の自主返納はとくにやめておいて、社員だけが低額に抑えられることは理不尽である。不当極まりない」と主張しました。会社は、ベアの考えと同様な主張を繰り返すのみで、全ての項目について対立しました。

次回の第4回団体交渉は、3月6日に開催します。